

(案)

令和6年度千葉市図書館の評価

千葉市図書館のサービスの向上を図るため、「千葉市図書館ビジョン2040」における目標達成に向けた2つの基本目標と施策展開の柱に沿い、令和6年度の図書館評価を示します。

※評価対象：令和6年度、評価実施：令和7年度

基本目標1

特長のある「知の拠点」の実現

施策展開の柱

- 1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進
- 2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築
(多様な主体による知の創出・活用)
- 3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

基本目標2

新たな時代に適応する運営の実現

施策展開の柱

- 1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現
- 2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

評価結果一覧

評価	
A	計画通りに実施でき、一定の成果があった。
B	課題はあるものの、概ね計画通り実施できた。
C	不十分な点や課題が多く、計画通りに実施できなかった。
-	今後取組事項として、研究・検討している。

	項目数	内部評価		外部評価	
	全体	9	A	5	A
		B	3	B	3
		C	1	C	1
		-	0	-	0

	項目数	内部評価	外部評価
	図書館サービスの基本的な取組事項	1	B

	項目数	内部評価		外部評価	
	令和6年度 主要事業	8	A	5	A
		B	2	B	2
		C	1	C	1
		-	0	-	0

施策の柱ごとにおける進捗状況について

区分	
達成	事業量に対し、8割以上進捗しているもの
順調	概ね順調に進捗しているもの（事業量に対し、6割以上進捗しているもの）
遅れ	進捗状況に遅れが出ているもの（事業量に対し、6割未満の進捗であるもの）

基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現	進捗状況
1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進	遅れ
2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)	順調
3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実	達成

基本目標2 新たな時代に適応する運営の実現	進捗状況
1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現	順調
2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築	順調

図書館協議会外部評価部会委員の意見に対する対応

説明	項目数
意見に対する取組みを実施しているもの	1
意見に対する取組みについて検討しているもの	0
未対応のもの	0

図書館サービスの基本的な取組事項

取組説明	内部評価	取組結果	今後の取組み	外部評価	外部評価者のコメント
<p>資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。</p>	B	<p>【資料の有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度の低下した資料を除籍または所管替えし、空いた書架に新刊書を配架するなど、書架の有効活用を図った。 ・中央館・地区館・分館間で資料や地域・行政資料の移管および分担購入を実施し、予算の有効活用と資料の効率的な配置に努めた。 ・寄贈資料の受け入れを通じて蔵書の更新を図るとともに、利用者との信頼関係を深め、継続的な寄贈につなげた。 <p>【資料提供サービスの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千葉市図書館資料収集方針」に基づき、各分野の新刊書を購入し、提供した。 ・中央館・地区館職員による合同選定会議や館内選定会を実施し、リクエスト資料など利用者の要望を迅速に反映させ、購入や相互貸借に努めた。 ・日々のカウンター業務を通じて収集した利用者の要望を資料選定に反映した。 ・企画展示に併せて関連資料を購入し、展示・紹介することで利用促進を図った。 ・来館者に新刊書を案内するため、新刊新着本のリストを作成し、新刊コーナーで提供した。 ・毎月、新刊新着本リストを発行し、継続的な情報提供を行った。 <p>【電子書籍】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍サービスについて、提供資料数を12,872点から13,620点に拡充した。 ・秋休み前に「すぐる」(学校・保護者間連絡システム)を活用し、電子書籍サービス啓発チラシを一斉配信することで利用促進を図った。 ・教職員向けの研修等を通じて電子書籍サービスの周知を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なイベントや展示を実施し、図書館の利用促進を図った。その結果、新規登録者数は前年度とほぼ同水準であったが、来館者数は約1.9万人増加した。今後も引き続き、おはなし会や主催行事の充実に努めるとともに、令和6年度に利用冊数が前年度を上回った電子書籍サービスに一層注力し、利用の拡大を目指す。 ・図書資料については、利用者の興味・関心を広げる企画展示等を計画的に実施し、資料との新たな出会いや発見を促すことで、施設のさらなる利用促進につなげていく。 ・資料の充実に努めるため、引き続き予算の確保に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なイベントや展示を実施し、図書館の利用促進を図った結果、対前年度比来館者数は約1.9万人増加した。今後も引き続き、利用者のニーズを探り拡大を図ってほしい。 ・司書資格を有する職員割合の増、また、職員を対象とした図書館業務に関する研修への参加を促すなどし、レファレンス業務の充実を図ってほしい。 ・図書館ホームページアクセス件数、電子書籍の閲覧回数は昨年度比増となり、利用者増の試みの成果が出ていると思われる。一方、電子書籍利用冊数の貸出点数、電子書籍の予約点数は、減少していることから、継続的な利用に結びついていないのではないかとと思われる。更なる工夫が必要。 ・社会人向けの電子書籍の充実も図ってほしい。 ・高度情報化社会がさらに進み、一方、人口減少局面が本格化した後も公立図書館が社会的な役割を果たしていくためには、子どもから高齢者まで多くの市民が利用する公共施設である強みを活かし、地域の課題解決への貢献、地域情報の収集等の機能強化を図る必要があると思う。 ・図書館の利用促進の取組により、来館者数が増加していることは成果として評価に値すると思う。一方、年間貸出利用率や市民一人当たりの貸出数及び総貸出数が減少傾向にある点に気になる。その原因を模索し対応が必要ではないかとも思うが、電子書籍の利用が伸びているので、今後、書籍(紙)と電子書籍の比重をどうしていくか見極め、検討することが必要であると思う。 ・前年度とほぼ同水準の統計データが多いなか、ホームページアクセス件数・電子書籍利用数の増加はこれまでの取り組みの成果として評価できる。 ・来館者数や貸出冊数はコロナ禍以前の数値に戻っていないのは本学図書館でも同様であり、館種を超えたまたは全国的な傾向であるなら国として検討を要望してもよいのではないか。 ・新規登録者数などは人口の増減にも左右されることが想定されるので、評価基準の設定を考慮してもよいのではないか。

No.	評価指標	達成目標	R6年度実績	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,488人	19,492人	19,810人	18,555人	13,452人	18,977人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	208.9万人	207.0万人	197.5万人	197.0万人	162.7万人	250.5万人
	年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の6.8%	市民の7.6%	市民の8.5%	市民の9.8%	市民の9.0%	市民の11.4%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	41,103冊 (うち購入22,690冊 寄贈18,275冊 その他138冊)	44,239冊 (うち購入25,560冊 寄贈18,528冊 その他151冊)	44,926冊 (うち購入27,948冊 寄贈16,788冊 その他190冊)	47,255冊 (うち購入28,074冊 寄贈19,024冊 その他157冊)	49,429冊 (うち購入32,175冊 寄贈17,102冊 その他152冊)	56,431冊 (うち購入35,379冊 寄贈20,878冊 その他174冊)
	図書資料整備費(予算額)	現状維持	94,428千円 (うち電子書籍10,299千円)	92,144千円 (うち電子書籍8,282千円)	96,596千円 (うち電子書籍8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍3,000千円)	88,621千円	92,214千円
	図書資料整備費(決算額)		78,678千円 (うち電子書籍9,278千円)	78,396千円 (うち電子書籍7,501千円)	81,051千円 (うち電子書籍8,998千円)	74,458千円 (うち電子書籍3,541千円)	76,336千円	82,012千円
	市民一人当たり貸出数及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり3.8冊 総貸出数374万冊	一人当たり3.9冊 総貸出数387万冊	一人当たり4.0冊 総貸出数388万冊	一人当たり4.1冊 総貸出数400万冊	一人当たり3.51冊 総貸出数345万冊	一人当たり4.41冊 総貸出数432万冊
	WEB予約件数		対前年度比増	104.6万件	105.9万件	104.6万件	101.4万件	93.2万件
	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	9,905,349件 (※1)	3,581,767件	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件
	(※1) 急増の要因は、特定のIPアドレスからの高頻度なアクセスと考えられる。							

No.	評価指標	達成目標	R6年度実績	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績
電子書籍	ログイン数	対前年度比増	186,942回	63,366回	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)
	提供コンテンツ数		13,620点	12,872点	11,259点	8,866点
	利用冊数 (上段:貸出点数、下段:閲覧回数)		19,207点 278,317回	20,415点 68,755回	16,856点 51,282回	12,518点 —
	予約点数		5,641点	6,505点	8,263点	6,904点

令和6年度 主要事業 一覧

■主要事業取組項目

No.	項目	取組説明	R6年度予算	内部評価	取組結果	外部評価	外部評価者のコメント
1	(1)市民インタビューによる記憶の保存	デジタル資料の提供やインタビュー手法を用いて、隠れたエピソードや失われつつある記憶を発掘・記録・発信するとともに、これらの情報のレファレンスサービスとリンクした活用を推進します。また、地域で活動している郷土史研究者や教員OBへの地域に関するモデル的な情報収集を通して、こうした情報を継続的に発掘する市民協働体制の構築を進めていきます。	2,627千円	B	<ul style="list-style-type: none"> ・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者へ委託して実施した。インタビューについては、町内自治会連絡協議会会長経験者や家庭教育支援チーム、郷土史調査団体など、10件の取材を実施し、今年度からインタビューの一部を動画として掲載した。 ・メールレファレンスサービス等において、デジタル化した地域資料(千葉市史)について情報提供した。 ・市民協働体制の構築において、現時点では当初想定していた取組は実施できておらず、体制の構築にも至っていない。今後、改めて具体的な進め方や体制のあり方について検討を行う必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市オーラルヒストリーはテーマ及び聞き取りの内容が市民生活に密着した地に足のついたもので、未来へつなぐ「知」の収集・保存という方針に沿ったものになっている。今年度からは、一部インタビュー中の映像もありより親しみやすくなった。 ・隠れたエピソードや様々な情報を収集・記録するため、市民協働の体制作りを推進していただきたい。 ・将来的に貴重な資料となることが想定できるので計画的に進めていただくのがよい。今後の活動のために利用状況の提供があれば励みになったり改善点が把握できるのではないかと。
2	(2)地域情報のデジタル化	千葉市地域情報デジタルアーカイブへ新たに「千葉大系図」「妙見信仰調査報告書」をデジタル化し、公開します。	2,736千円	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月末、千葉市オーラルヒストリー10件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計46件) ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書1」「千葉大系図」及び「千葉市郷土かるた」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和7年2月末より公開した。(「千葉市郷土かるた」は同年3月末に公開) ・デジタルアーカイブの総アクセス数について、令和6年度は250,059件、令和5年度は154,712件であり、前年度比増となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・着実に地域情報のデジタル化がなされ、将来への財産となることからこれからも進めてほしい。 ・オープンアクセス可能な史料が増加することは歴史研究や地域研究、生涯学習の振興のためにも望ましい。
3	(3)レファレンス機能の充実	市民や企業等からの高度な情報ニーズに対応するため、法律や経済等のオンラインデータベースを提供し、レファレンスの機能の充実を図ります。	3,370千円	A	<ul style="list-style-type: none"> オンラインデータベースの提供(端末2台)を継続し、市民や企業の専門的な情報ニーズに対応した。特に、新聞記事に関するレファレンスにおいて、積極的に利用されており、よりの確なレファレンスサービスの提供に努めた。 (オンラインデータベース種類:「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」、「新聞記事」) ・オンラインデータベースの利用状況について、令和6年度の年間利用者数は153名(月平均12.75名)、令和5年度(10月27日～3月31日)は54名(月平均10.8名)であり、前年度比増となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインデータベースを利用することによりレファレンスサービスも即時に適切な回答が出来るようになったと思う。 ・データベース個々の特性もあるため、担当職員には一層の習熟をお願いしたい。
4	(4)電子書籍サービスの提供(学校向けコンテンツの充実)	デジタル社会に対応した学校の読書活動などを支援するため、電子書籍サービスの学校向けコンテンツの充実を図ります。	10,299千円	A	<ul style="list-style-type: none"> ・選書により2,264点を資料提供し、提供資料数を12,872点から13,620点に拡充し、学校向けコンテンツを含むサービスの充実を図った。 ・小・中・特別支援学校での電子書籍閲覧回数について、令和6年度は218,901件、令和5年度は15,127件であり、前年度比増となった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、利用促進のための方策等が必要となるであろう。 ・学校向けコンテンツの充実を図っていただいたが、その資料の選定方法はどのように行っているのか。
5	(5)社会教育施設保全計画の策定(公民館・図書館)	「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針などにに基づき、施設毎の状況を踏まえ、適切に対応するための方針を定める社会教育施設保全計画を策定します。	—	B	計画策定に向けて検討を進め、令和7年1月28日に政策会議にて方針決定し、令和7年3月末に令和7年4月16日(水)～令和7年5月16日(金)にパブリックコメントを実施する旨決定した。	B	
6	(6)千城台公民館・若葉図書館再整備	千城台公民館・若葉図書館について、令和4年度に実施した市民ワークショップや利用者アンケートの意見・要望を可能な限り反映させながら、令和5年度に策定した基本計画に基づき、施設整備を進めていきます。	49,000千円 (生涯学習振興課予算)	A	関係各課と調整検討を行い、令和7年3月末に基本設計を完了した。その他、現況測量・土質調査・分筆登記を実施した。	A	
7	(7)花見川図書館花見川団地分館の空調設備改修工事	当該施設の空調設備に不具合が発生しているため、改修工事を行います。	130,000千円 (生涯学習振興課予算)	A	花見川図書館花見川団地分館にて、空調設備改修工事を実施した。 (事業費:67,985千円)	A	
8	(8)稲毛図書館昇降機改修実施設計業務委託	当該施設の昇降機に不具合が発生しているため、改修工事の実施設計を行います。	3,000千円 (都市局建築部予算)	C	入札不調の為、翌年度に実施予定。	C	・工事費高騰等により入札が不調となり、改修工事が実施できずに至っているが、早急に利用者の利便性を高めてほしい。

取組項目

【基本目標1】 特長のある「知の拠点」の実現

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

	R6_取組項目	R6_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	1 (1)「千葉市民の知」の計画的な集積と発信 ア 千葉市図書館地域情報デジタルアーカイブ化計画に基づき、デジタル資料の提供やインタビュー手法を用いて、隠れたエピソードや失われつつある記憶といった「千葉市民の知」の発掘・記録・発信するとともに、これらの情報をレファレンスサービスとリンクした活用を推進し、地域情報サービスの充実を図ります。 (予算:2,625 [千円])	・オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、町内自治会連絡協議会会長経験者や家庭教育支援チーム、郷土史調査団体など、10件の取材を実施し、今年度からインタビューの一部を動画として掲載した。 ・メールレファレンスサービス等において、デジタル化した地域資料(千葉市史)について情報提供した。	中央	A
	2 (2)本市の歴史的文書の整理・保存など ア 本市の歴史的な資料の整理・保存、セミナーや座談会での使用、企画展示その他の効果的な活用について、検討し、実施します。	【デジタル化】 ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書1」「千葉大系図」及び「千葉市郷土かるた」をデジタル化し、千葉市地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和7年2月末より公開した。「千葉市郷土かるた」は同年3月末に公開 【地域資料の整理・保存等】 ・地域資料の企画展示を実施するとともに、政令指定都市30周年や市制100周年を記念して発行された刊行物等をはじめとした地域・行政資料や、地域情報の千葉市関連資料(パンフレット等)を収集及び保存した。 【企画展示】 ・図書館周辺の遺跡に関するミニ展示、講座を開催した。 ・一般資料の企画展示の際にテーマに関連する地域資料を併せて展示し、地域資料の利用促進を図った。 ・市民講座と連携の企画展示で、「千葉氏」に関連する本の展示を実施した。	全館	B
	3 (3)「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築(「知」の見える化) ア 千葉市地域情報デジタルアーカイブへ新たに「千葉大系図」「妙見信仰調査報告書」をデジタル化し、公開します。 (予算:2,736[千円])	・令和7年3月末、千葉市オーラルヒストリー10件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計46件) ・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書1」「千葉大系図」及び「千葉市郷土かるた」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和7年2月末より公開した。「千葉市郷土かるた」は同年3月末に公開 ・デジタルアーカイブの総アクセス数について、令和6年度は250,059件、令和5年度は154,712件であり、前年度比増となった。	中央	A
	4 (4)デジタル・アーキビスト等の専門人材の養成 ア デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について必要な資格取得の支援などを行い、人材の養成を進めます。	・令和4年度より、千葉市職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け、周知を図った。 ・デジタルアーカイブ関係機関(日本デジタルアーキビスト資格認定機構)からの情報収集に努めた。 ・千葉市職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めたい。	中央	B
	5 (5)「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築 ア 地域で活動している郷土史研究者や教員OBなどに依頼してモデル的に地域に関する情報収集を実施し、その結果を検証した上で、収集方針やボランティアの活動を支援する仕組みなどの検討を行い、継続的に機能する体制を構築します。 (予算:2[千円])	地域で活動する郷土史研究者や教員OB等の協力を得て、モデル的に地域情報の収集を行い、その結果を検証した上で、収集方針やボランティア活動の支援体制を検討し、継続的に機能する仕組みを構築することを計画していた。 しかしながら、現時点においては、当初想定していた取組は実施できておらず、体制の構築にも至っていない。今後、改めて具体的な進め方や体制のあり方について検討を行う必要がある。	中央	C
	6 (6)学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援 ア 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について検討します。	研究活動を行っている団体が必要としている支援内容を把握するため、ヒアリング等の実施を検討している。また、市民による研究成果を発表できる仕組みの構築に向けて、他自治体の取組事例の調査・研究を進めている。	中央	B

内部評価	<p>進捗状況</p> <p>遅れ</p> <p>(1)オーラルヒストリーを作成するために取材とレポートの作成等の業務を民間事業者に委託して実施した。インタビューについては、町内自治会連絡協議会会長経験者や家庭教育支援チーム、郷土史調査団体など、10件の取材を実施した。</p> <p>(2)(3)歴史的資料である「妙見信仰調査報告書1」「千葉大系図」及び「千葉市郷土かるた」をデジタル化し、地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和7年2月末より公開した。「千葉市郷土かるた」は同年3月末に公開</p> <p>(3)令和7年3月末、千葉市オーラルヒストリー10件について、千葉市地域情報デジタルアーカイブ上で新規追加公開し、千葉市図書館ホームページからのリンクで閲覧可能となった(合計46件)</p> <p>(4)専門人材養成のため、引き続き、資格取得支援制度や人材公募制度の活用を図る。 また、国会図書館等の研修については積極的な参加に努めるとともに、開催されない場合でも、公開されている過去の研修資料(Youtube動画、PDF資料)を活用した内部研修の実施について検討する。</p>	<p>A→2 B→3 C→1</p>
外部評価者のコメント	<p>(1)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーラルヒストリーに、今年度からインタビューの一部を動画として掲載され、より内容を把握できるようになったと思う。オーラルヒストリーの一覧表示ページでは、個々の内容が分かりにくいので、いちいち次のページ(目録)を見に行かないと分からないことから、一覧表示ページに個々の内容細目を表示するなどの工夫してほしい。 ・将来的にも貴重な資料なので計画的に進めていただくのがよい。今後の活動のために利用状況の提供があれば励みになったり改善点が把握できるのではないか。 ・オープンアクセス可能な史料が増加することは歴史研究や地域研究、生涯学習の振興のためにも望ましい。史料の提供とともに発表の場となるような仕掛けも今後の課題として取り組んでほしい。 ・インタビューは録音データを視覚障害者向けに提供できないか?(読書バリアフリーの一環として) <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「千葉市郷土かるた」がデジタルアーカイブ上に公開された。同カルタを用いたカルタ大会を企画するのも一考。 ・開府900年を前に、千葉市に関する歴史的資料がデジタル化された意義は大きいと考える。また、WEBサイトにて公開されており、利用者が情報を活用しやすい点はとても素晴らしいと思う。 <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単に研修を行うのではなく、受講者に何のために行うのかを十分に理解させ、また、受講後、一定のレベルがあると認めたりして、独自の称号(例えば、絵本エキスパート、検索エキスパート...)を与えるなど職員のモチベーションを上げる工夫が必要。 ・今後のデジタル化において、デジタルアーキビスト等の専門家の存在は欠かせない。先を見据え他人材育成を今後も継続することは大切だと考える。 	

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

	R6_取組項目	R6_取組結果	担当	個別の内部評価	
取組項目	7	<p>(1) SNS(Social Networking Service) を活用したイベントの配信 ア 千葉市図書館FacebookやX(旧Twitter)により、企画展示、講演会、おはなし会など学びのきっかけとなるイベント情報を配信します。</p> <p>【R5_外部評価より】 SNSは、見る側のフォロー等が必要であり、限定的な情報発信になりがちなため、不特定多数の目に触れるアナログな広報(駅にポスターを貼る等)も必要ではないか。</p>	<p>・SNS(XやFacebook)を活用し、企画展示やイベント、司書のおすすめ本の紹介、利用案内など、タイムリーな情報発信を行った。</p> <p>各地区館、公民館図書室、小・中学校、就学前施設に、「子ども読書の日」啓発のポスターの掲示依頼を行った。企画展示やイベントについては、館内においてもポスターの掲示及びちらしの配布を実施している。また、読書まつりにおいては、ホームページやXでの広報に加え、ちらしを大手家電量販店内の千葉市情報コーナーに配架し、ポスターは稲毛の大型ショッピングモールに掲示するなど、広く市民への周知に努めた。</p>	全館	B
	8	<p>(2) 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供 ア 公衆無線LAN(Wi-Fi)環境が整った環境を活用し、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備について、施設の改修等に合わせ取組みを推進します。</p>	<p>市民が集い、学びや交流ができる場の提供に向けて、Wi-Fi環境を備えたミーティングルーム等の整備については、施設の改修時期や利用ニーズを踏まえ、引き続き検討していく。</p>	中央	—
	9	<p>(3) 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進 ア 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。</p>	<p>【様々な手段でのレファレンス】 ・窓口、電話、メール、手紙によるレファレンス対応に加え、フロアワークを実施することで、市民の課題解決をサポートし、レファレンスサービスの充実を図った。 ・オンラインデータベース(端末2台)を活用し、レファレンスサービスの充実を図った。 (オンラインデータベースの種類: 新聞記事、法律、経済、官報、百科事典)</p> <p>【レファレンスのPR】 ・レファレンスのPRのため、図書館ホームページの「調べ物相談(レファレンス・サービス)」のページに地域に関するレファレンス事例を掲載した。(累計38件 ※令和6年度に2件追加、既存事例の修正も実施) ・“調べ方の道案内(パスファインダー)”として、調査に使える基礎資料の一部や調べ方をホームページで紹介。館内では、リーフレットを設置し、来館者に広く提供した。</p> <p>【レファレンスに関する研修】 各関係機関(千葉県立図書館を含む)で実施された研修に職員が参加し、レファレンススキルの向上に努めた。</p>	全館	A
	10	<p>イ 出会いのある図書館利用の促進や、地域の交流の場とするため、講座や企画展示などによる情報発信をします。</p>	<p>【講座】 世代を超え、交流の場となるような講座等を実施した。 (例) ・子ども読書講座、絵本読み聞かせ講座 ・定例おはなし会や大型絵本・紙芝居によるおはなし会 ・体験型の市民講座(科学講座、工作・折り紙教室) ・文化に関する市民講座(落語、郷土文学、地域遺跡や加曽利貝塚に関する講座) ・図書館市民講座(千葉開府900年に向けて、千葉氏を知ろう)</p> <p>【企画展示】 地域に密着した情報発信や図書館資料の利用促進を目的に、様々なテーマに基づいた展示を実施した。 (例) ・新刊資料コーナーの設置や季節・テーマに沿った展示 ・地域の遺跡や貝塚に関する資料展示 ・児童展示コーナーで科学や自由研究関連の資料展示 ・タイムリーな話題に対応したミニ展示コーナー設置 ・メダカ飼育の展示(本物のメダカも飼育・展示) ・エントランスでのテーマ展示(防災に関する展示等) ・市関係課と協力したミニ展示(健康推進課、動物保護センター、感染症対策課等とのコラボ) ・ビジネス展示コーナーで就職・転職・資格関連資料展示</p> <p>【その他】 ・「本だいすき」を実施し、出会いのある図書館利用の促進を図った。 ・テーマごとに封入した「本の福袋」を展示し、読書への興味を引き起こす取り組みを実施。</p>	全館	A

11	(4)生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化 ア 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力をを行います。	<p>【生涯学習施設との連携】 (公民館) ・こてはし台公民館の主催事業に関連する展示を行い、ブックリストを作成・配布・市民講座を実施 ・鎌取コミュニティセンターとの共催事業で、おはなし会、夏の工作教室(勾玉づくり)、わらべうた・市民講座などを開催 ・土気公民館の文学講座・歴史講座に合わせて、関連図書の特集コーナーに展示 (加曾利貝塚博物館) ・市民講座を開催 (千葉市科学館) ・子ども向けイベント「骨はかせになろう」を実施 (生涯学習センター) ・「わらべうたと絵本の会」、「子ども読書講座」を実施 ・国際交流課の協力を得て、外国語おはなし会を実施</p> <p>【教育機関との連携】 ・小学校の図書館見学、まちたんけんを受け入れ ・中学校の職場体験を受け入れ ・読書まつりで、近隣の小・中学校の展示・発表を実施 ・読書まつり等で、高校生によるおはなし会を実施 ・大学と連携し、学生ボランティアによる「英語で楽しむ親子おはなし会」を実施</p> <p>【公共施設等との連携】 ・千葉市こども家庭支援課主催の展示「もっと知りたい里親制度」に合わせて、里親や家族に関する図書展示を児童フロアで実施 ・千葉市健康支援課からの依頼を受け、「赤ちゃんとのふれあい絵本ボランティア全体研修会」の講師を務めた。 ・千葉市美術館の展示に合わせた資料の貸出・本の展示を児童フロアで実施 ・郷土博物館から講師を招き、市民講座を実施 ・埋蔵文化財調査センターと連携し、小学生向け「わくわく体験教室(科学工作教室)」を実施</p> <p>【NPO法人との連携】 ・読書まつりにおいて、NPO法人ちば算数・数学を楽しむ会に講師を依頼し、「つくってあそぼう算数工作」を実施 ・夏休みにNPO法人と協力して、「おもしろ算数と絵本の会」を実施(小学生対象) ・環境絵本の読み聞かせイベントを開催</p>	全館	A
12	イ 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います。	<p>・選書の参考として、公民館図書室に対して使用済みの新刊全点案内を毎月送付した。 ・図書のリクエストや問い合わせに対して迅速に対応した。 ・公民館図書室の資料充実を図るため、寄贈資料を未所蔵の図書室に送付するなどの支援を行った。 ・「図書館・生涯学習振興課・公民館管理室・公民館図書室の連絡体制等について」に基づき、関係機関と相互に協力して対応した。</p>	全館	A
内部評価	<p>進捗状況 順調</p> <p>主な成果等 (2)利用者との双方向のコミュニケーションを意識した情報発信に努めた。これにより、イベントへの関心喚起や次回以降の参加促進を図った。 (3) ・各関係機関(千葉県立図書館を含む)で実施された研修に職員が参加し、レファレンススキルの向上に努めた。 ・地域の交流の場となるよう、世代や関心を超えて人と人が出会えるよう、様々な講座を実施した。 ・地域に密着した情報発信や図書館資料の利用促進を目的に、様々なテーマに基づいた展示を実施した。 ・「本だいすき」や「本の福袋」など、図書館利用の促進や、読書への興味を引き起こす取り組みを実施した。 (4)様々な連携事業を実施し、数値目標「連携事業等実施数(学校以外の施設等)」が前年度比増となった。引き続き連携事業を実施し、資料収集や各種事業において相互協力を努める。</p>			A→4 B→1 →1
外部評価者のコメント	<p>(1) ・新たな広報活動(チラシの配架、ショッピングモールにポスター掲示)を行い、SNS登録者、図書館利用者以外の人々に向けた周知を図った。今後も効果を見ながら市民の目に付く施設にポスターの掲示を進めてほしい。 ・中学生はネットトラブルの回避のため、SNSの利用を制限している場合もある。そのため、目に見える形でのポスター掲示などにより情報を得ることはとても有効であると思う。 (3) ・レファレンススキルは研修の他に経験から身に着くものもあるため、職員の配置には配慮してほしい。 ・「メダカの本」と「メダカ」を並べて展示するといった図書だけではない展示企画はより興味関心を喚起するので、実施には手間がかかるが取り組んでいただきたい。</p>			

3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

	R6_取組項目	R6_取組結果	担当	個別の 内部評価
取組項目	13	(1)計画的なこどもの読書活動の推進 ア 子どもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に策定した「千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)」に基づき取組みを推進します。	全館	A
	14	イ 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動を進めるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。	全館	A
	15	(2)子どもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実 ア こどもの本を知り、本を手渡す技術を習得するため、必要な研修を実施するとともに、講師として講座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。	全館	A
	16	(3)こどもの本の充実 ア すべてのこども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。	全館	B
	17	(4)こどもや保護者を対象とした取組みの充実 ア 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。	全館	A
	18	イ 子どもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、こどもの読書の意義及び目的を啓発します。また、司書課程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。	全館	A

19	ウ こどもが読書に親しむきっかけを作るとともに、家庭での読書の習慣付けを図るため、未就学児(年長児)、小学校1年生から6年生を対象に読書手帳や、新就学児を対象に図書館利用申込書を配布します。	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年4月には「どくしよてちょう」を、年長児用に約11,000冊、小学1年生から3年生用に約30,000冊、小学4年生～6年生用に約30,000冊配布し、児童生徒に家庭での読書の習慣付けを図った。 ・図書館見学に来館した子どもに「どくしよてちょう」を配布した。 ・カウンターに「どくしよてちょう」を置き、未就学児や小学生に配布した。 ・小学校新入学児童向けの「ファミリーブックタイム事例集」を市内全小学校に配布に併せ、利用申込書の配布(9,700部)も行った。 	全館	A
20	(5)移動図書館車の活用 ア 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校等にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。	昨年度は、学校等からの要望が無かったため、移動図書館車による訪問の実施には至らなかった。学校や公園でのイベント等へ参加する機会があれば積極的に訪問・参加する等し、引き続き図書資料に触れる機会の提供に努める。	中央	B
21	(6)学校・学校図書館との連携・協力の推進 ア 学校と連携し、児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、学校への団体貸出や、図書館から職員等が学校に向いておはなし会等を行います。また、学校図書館運営委員会において、選書や運営に関する情報交換を行う等、学校図書館と図書館や公民館図書室が連携してこどもの読書活動の推進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣小学校や中学校と連携し、図書館見学、まちたんけん、職場体験の受け入れを実施した。 ・学校への団体貸出を実施しや、出張おはなし会を実施した。 ・「読書まつり」において、近隣小・中学校の展示、近隣小・中学校による発表、高校生によるおはなし会を行った。 ・学校等の要望を受け、新しい学校用セットの整備やセット内容、貸出手続きの見直し等、学校用団体貸出資料の充実を図った。また、選書や運営に関する情報交換も行った。 ・学校への団体貸出を行い、レファレンスや読書活動についての相談や、授業に役立つ資料を紹介した。 ・学校図書館指導員研修会にて、団体貸出について説明した。また、学校図書館主任協議会において、新たな取組や団体貸出について説明した。 ・団体貸出で来館した教員や学校図書館指導員に、聞き取りやアンケートを取り、現在の団体貸出資料について良い点や改善してほしい点について情報を交換した。 ・図書館で不用になった本を、市内小・中・特別支援学校に提供した。 	全館	A
22	イ 図書館資料を市内小・中・特別支援学校で活用するための支援として、「学校レファレンス用カード」の利活用を促進を図ります。	<p>令和5年度と比較すると、利用している学校・回数等ともに低下している状況である。利用している学校の中には複数回の利用のある学校もあり、取組としての有用性は理解されていると考えられる。引き続きより多くの学校の要望に応えられるよう、具体的な検討を行っていく。</p> <p>【利用状況】 R6年度の貸出回数 190回 利用校数 62校</p> <p>【意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(団体貸出のような)手続きなしで借りられるのが便利 ・貸出冊数が多いと更に良い ・本の予約や取り置きが可能になると更に良い 	中央	B
23	(7)「千葉市民の知」の学校教育での活用 ア 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について検討します。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月末、千葉市オーラルヒストリー10件を千葉市地域情報デジタルアーカイブに新規追加公開し、千葉市図書館ホームページから閲覧可能となった(合計46件)。 ・学校に導入された「ギガタブ」を利用した郷土学習コンテンツとしての活用については、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化された資料の充実度に応じて、今後検討を進める。 ・令和6年度には「千葉市郷土かるた」をデジタル化しており、学校へのデジタル化資料のPRも積極的に行っていく。 	中央	B

24	(8)その他の取組み ア 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おはなしボランティアの派遣に関して、保健福祉センターや生涯学習センター等で行われるおはなし会への調整を行った。 ・地域おはなしボランティアと協力し、読書まつり、子育てリラックス館や、近隣小学校にて、おはなし会を実施した。 ・地域おはなしボランティアのスキルアップを目的とした講座や勉強会を開催し、知識や技術の向上を図った。 	全館	B
25	イ 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われるこどもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。	<p>【赤ちゃんとのふれあい絵本ボランティア全体研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4か月検診で行われるブックスタート事業に関連する研修会の講師を務め、赤ちゃんとの絵本のふれあい方法についての知識などを広めた。 <p>【地域おはなしボランティアの派遣】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼のあった施設(公民館の育児サークル、子育てリラックス館など)に地域おはなしボランティアを派遣し、月例活動やサークル活動を支援した。 ・近隣のコミュニティセンターなど(高洲コミュニティセンター、鎌取コミュニティセンター、土気あすみが丘プラザ)と連携し、親子おはなし会やイベントを共催して、地域での読書活動の推進を図った。 	全館	A
進捗状況 達成		A→8 B→5		
主な成果等 (1)(3)令和7年度に向けて、千葉市教育みらい夢基金を活用した児童青少年向け図書等の充実に関する検討及び予算要望を実施した。 (3) 内部評価 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な年齢層に対応したこども向け新規図書の計画的な購入を行うとともに、古くなった図書や状態の悪い図書の除籍・買い替えを実施し、読書環境の整備に努めた。 ・児童担当を中心とした館内選書会議を実施し、よりよい資料の収集に向けた情報収集や現物確認を行った。 ・こども向け新刊図書の展示や季節展示を実施し、興味を引く工夫を凝らした。 (4)高校の協力を得て「高校生が語るおはなし会」を実施し、異年齢層の交流の場を提供した。 (7) <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年3月末、千葉市オーラルヒストリー10件を千葉市地域情報デジタルアーカイブに新規追加公開し、千葉市図書館ホームページから閲覧可能となった(合計46件)。 ・令和6年度には「千葉市郷土かるた」をデジタル化しており、学校へのデジタル化資料のPRも積極的に行っていく。 				
外部評価者のコメント (4) <ul style="list-style-type: none"> ・「高校生が語るおはなし会」は、語った高校生の経験を積ませたこと。また、異年齢層の交流の場を提供したことは評価できる。今後も実施に向けて高校とも協議してほしい。 (全体) <ul style="list-style-type: none"> ・様々なイベントの実施は、魅力ある図書館、訪れたい場所として小中学生に意識されると思う。就学中は学校図書館を利用している子どもたちだが、学校を卒業し、自分にとって身近な場所として認識されていけば千葉市の図書館を利用することにつながるはずである。そのためにも、引き続き楽しいイベントの実施やその周知を図るとともに、小中学校と連携した取組を推進していただきたい。 ・例えば教育委員会と協議をして、ギガタブの中に、図書館イベント案内や利用コンテンツなどのページがすぐに見られる案内ボタンのようなものがあると、利用が増えるかもしれない。 ・子供時代の読書習慣がその後の学びに大きく寄与するため重要な取組みである。継続的な取組をお願いしたい。 ・子供自身が企画できるイベントがあるとよいのではないか。 				

【基本目標2】 新たな時代に適応する運営の実現

1 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

	R6_取組項目	R6_取組結果	担当	個別の内部評価	
取組項目	26	(1)利便性の高い場所へのサービスポイントの設置 ア 利用者の利便性を高めるため、駅前の商業施設などに予約本の受取返却ができるサービスポイントの設置について、施設の再整備にあわせて検討します。	駅前商業施設等への予約本の受取・返却が可能なサービスポイントの設置について、施設の再整備に合わせた導入の可能性を、引き続き検討している。	中央	—
	27	イ 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。	市内26カ所のステーションへ、月2回の指定日に巡回し、貸出等のサービスを提供した。	中央	B
	28	(2)開館日・開館時間の最適化 ア 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も取り入れながら検討します。	・利用者の利便性を高めるため、開館日・開館時間の最適化について、新たな生活様式への対応も視野に入れて検討した。	中央	—
	29	(3)インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備 ア「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。	・大活字本、点字付き絵本、視聴覚資料(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)など、高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。また、大型活字本の設置場所を館手前に移動し、利便性の向上を図った。 ・来館が困難な身体に障害のある利用者に対しては、自宅配本サービス(月2回)を継続実施し、訪問時には希望者に新刊案内を配布することで予約利用の促進にも努めた。 ・館内では拡大読書器の活用支援を行い、視覚に障害のある利用者の読書環境に配慮した。 ・視覚障害等により活字による読書が困難な利用者に対しては、録音図書の郵送貸出を行った。 ・障害者サービス研修会や音訳研修会を実施した。	全館	B
	30	イ 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。	・千葉市図書館の外国語資料数について、令和6年度は22,255件となり、令和5年度の22,120件から135件の増加となった。 ・外国語を学ぶための資料収集に努め、英語、韓国語、ドイツ語、ベトナム語、イタリア語、ロシア語、中国語、スペイン語、フランス語など多言語での資料を充実させた。 ・中央展示コーナーでは、外国語資料に関連する展示を3回実施(英語の詩集の紹介など)し、多言語資料の認知度向上を図った。 ・こども室内に外国語絵本のコーナーを設置 ・児童向け外国語資料の購入と寄贈を受け入れるなどして、外国語(英語など)絵本や読み物を児童フロアに配架した。	全館	A
	31	(4)自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化 ア 利用者の利便性を高めるため、ICTを活用したサービスを提供します。(IC タグ、自動貸出・返却機等の導入等)	・貸出サービスのセルフ化を図るため、花見川図書館では自動貸出機などのICTを活用したサービス提供に努めた。 ・施設の再整備に併せたICTを活用したサービスの導入を検討し、若葉図書館の再整備において、自動貸出機、自動返却機、予約図書受取室の設置について進めている。	中央	A
	32	(5)情報環境の整備 ア 市民や企業等からの高度な情報ニーズに対応するため、法律や経済等のオンラインデータベースを提供し、レファレンスの機能の充実を図ります。 (予算:3,370[千円])	・オンラインデータベースの提供(端末2台)を継続し、市民や企業の専門的な情報ニーズに対応した。 特に、新聞記事に関するレファレンスにおいて、積極的に利用されており、よりの確なレファレンスサービスの提供に努めた。 ・オンラインデータベースの使用方法について、職員研修を実施した。 (オンラインデータベース種類:「法律・行政」、「経済・経営」、「学術」、「新聞記事」) ・オンラインデータベースの利用状況について、令和6年度の年間利用者数は153名(月平均12.75名)、令和5年度(10月27日～3月31日)は54名(月平均10.8名)であり、前年度比増となった。	中央	A

33	(6) 電子書籍サービスの充実 ア デジタル社会に対応した学校の読書活動などを支援するため、電子書籍サービスの学校向けコンテンツの充実を図ります。 (予算:10,299[千円])	<ul style="list-style-type: none"> ・選書により2,264点を資料提供し、提供資料数を12,872点から13,620点に拡充した。 ・小・中・特別支援学校での電子書籍閲覧回数について、令和6年度は218,901件、令和5年度は15,127件であり、前年度比増となった。 	中央	A
34	(7) その他の取組み ア 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えるとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。	<p>【提示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用マナー向上を促す掲示(例:「雨の日のお願い」など)を行い、館内の環境整備を図った。 ・施設内の掲示物を見やすく改良し、利用者にとって分かりやすい案内を提供した。 <p>【書架】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書架の本を適正な量に削減し、極度に傷んだ資料の除籍や、利用の少ない資料を閉架に移動して、書架に適度な空間を確保した。 ・利用者の利便性向上を目的に、書棚の最上段及び最下段にあった資料を、取りやすく見やすい棚へ移動した。 ・地震等による落下の危険性があるため、最上段の書棚への配架を極力避けるようにした。 ・書架ごとのおすすめ本等を紹介する面展示を実施し、利用者の関心を引く工夫を行った。 ・一部の館では、館内で荷物を入れて回ることができるショッピングカートを導入し、利用者の利便性向上を図った。 ・一部の館では、大活字本の書架に視認性を高める棚用仕切りを新たに導入したり、新書コーナーを新設することで、利用者の利便性向上と、より見やすく探しやすい環境を整備した。 <p>【危機事案対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災事故発生を想定した防災訓練を実施し、職員の対応能力の強化を図った。 ・館内見回りを強化し、利用者への声掛けを積極的に行った。 	全館	A
35	イ 市民の図書館利用を促進するため、多様な媒体で、積極的な広報活動を行います。	<p>【媒体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページ、市政だより、図書館だより、SNS(X、Facebook)、ポスター、チラシ、デジタルサイネージ等、多様な媒体を活用して情報発信を行った。 ・一部の館では、近隣商業施設にPRポスターを掲示し、デジタルサイネージに図書館の紹介動画を掲載した。 ・電子書籍について、図書館ホームページ、SNS(X、Facebook)で購入した書籍情報を発信し、利用促進を図った。 <p>【イベント情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページやSNS(X、Facebook)を活用し、企画展示、市民講座、おはなし会等のイベント情報や、司書のおすすめ本の紹介を行い、積極的にPRを実施した。 ・館内ポスターを掲示したり、チラシを学校や関連施設に配布してイベント情報を広報した。 	全館	A
36	ウ よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館ホームページの「お問い合わせメールフォーム」や館内に設置した「意見箱」、「市長への手紙」などに寄せられた市民の意見を、図書館運営の改善に向けた基礎資料として活用し、回答を希望する利用者には迅速に対応した。 ・市図書館窓口配布及びWEBで千葉市図書館利用アンケート調査を実施した。 (図書館サービス満足度 94.3%) ・図書館ホームページについて利用者の要望に応じ、対応可能な部分(利用案内等)の加筆・修正を行った。 	全館	A

<p>進捗状況</p> <p>順調</p>	<p>主な成果等</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大活字本、点字付き絵本、視聴覚資料(朗読CD)、DAISY図書(デジタル録音図書)など、高齢者や視覚に障害がある利用者に配慮した資料を収集した。また、大型活字本の設置場所を館手前に移動し、利便性の向上を図った。 ・障害者サービス研修会や音訳研修会を実施した。 <p>(4)施設の再整備に併せたICTを活用したサービスの導入を検討し、若葉図書館の再整備において、自動貸出機、自動返却機、予約図書受取室の設置について進めている。</p> <p>(5)オンラインデータベースの提供(端末2台)を継続し、市民や企業の専門的な情報ニーズに対応した。特に、新聞記事に関するレファレンスにおいて、積極的に利用されており、よりの確なレファレンスサービスの提供に努めた。</p> <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子書籍の提供資料数を、12,872点から13,620点に拡充した。 ・電子書籍のログイン数、提供コンテンツ数、利用冊数(閲覧回数)が前年度比増となった。 <p>(7)千葉県図書館利用アンケートにおける、サービスの満足度は94.3%と、昨年度と同様に高水準である。</p>	<p>A→7 B→2 →2</p>
<p>内部評価</p>	<p>(3)(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進にむけた広報活動や様々な取組を行っており、評価できる。しかし、距離の問題や時間の制限、身体的な状況などにより、図書館に行きたくても行けない人々が一人でも多く利用できるような条件整備を工夫していただけるとありがたい。 <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインデータベース利用することによりレファレンスサービスも即時に適切な回答が出来るようになったと思う。 ・国立国会図書館のデジタルコレクションの利用はどのように考えておられますか？ <p>(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の児童生徒が電子書籍サービスを利用できることになった意義は非常に大きい。今後は利用拡大に向け、さらなる周知や小中学生にとって魅力ある本や教職員が授業においてあったらいいなと思うような本などのコンテンツをどんどん増やしていただきたい。 	
<p>外部評価者のコメント</p>		

2 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

	R6_取組項目	R6_取組結果	担当	個別の内部評価
取組項目	37 (1)図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成 ア 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。	・新任図書館職員に対し、業務の基礎学習による知識習得を図るため、初任者研修を実施した。(参加者37名) ・図書館職員(会計年度任用職員を含む)を対象に、第1回目は図書修理技術の習得を図るため、第2回目は接遇の質を高めるため、全体研修会を実施した。(参加者計34名) ・図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催のレファレンス研修会など 研修回数13件、受講者数25名)	中央	B
	38 (2)中央図書館の機能強化及び地区図書館・地区図書館分館の再編 ア 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について検討します。	・令和4年度より、千葉県職員資格取得支援助成制度の対象資格にデジタルアーキビストを盛り込み、資格取得支援に向け、周知を図った。 ・デジタル化担当職員が専門的知識向上のため司書資格を取得した。 ・千葉県職員の人材公募制度や、資格取得支援助成制度の活用により、資格取得を促すことなどに取り組み、人材の養成に努めたい。	中央	B
	39 イ地区図書館・地区図書館分館の再編について施設の再整備に合わせ検討します。	図書館機能のサービスについて、現状を把握するとともに、課題を整理し、今後の考え方を検討していく。	中央	—
	40 (3)図書館施設の老朽化への対応 ア「千葉県公共施設等総合管理計画」が示す基本方針などに基づき、施設毎の状況を踏まえ、適切に対応するための方針を定める社会教育施設保全計画を策定します。	計画策定に向けて検討を進め、令和7年1月28日に政策会議にて方針決定し、令和7年3月末に令和7年4月16日(水)～令和7年5月16日(金)にパブリックコメントを実施する旨決定した。	中央	B
	41 イ 若葉図書館は令和4年度に実施した市民ワークショップや利用者アンケートの意見・要望を可能な限り反映させながら、令和5年度に策定した基本計画に基づき、施設整備を進めます。(予算:49,000[千円])(生涯学習振興課予算)	関係各課と調整検討を行い、令和7年3月末に基本設計を完了した。その他、現況測量・土質調査・分筆登記を実施した。	中央	A
	42 (4)民間機能の活用 ア サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。	民間機能の活用を進めるにあたっては、関係部局や関係機関と協議を行った上で、慎重に検討していく。	中央	—

	43	(4)運営資金を確保する新たな手法の検討 ア 寄付金受入や募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した広告料により、運営資金の確保に努めるとともに、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について検討します。	・図書資料の整備に充てるため寄附金の受入や募金箱を設置し、資料費の確保に努めた。 ・広告料収入を確保するため、民間事業者による、ホームページバナー広告のほか、雑誌カバー等への広告を実施した。	中央	A	
	44	(5)関係機関との連携 ア 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。	移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。	中央	A	
	45	イ 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などの協力を推進します。	・市内未所蔵資料について、県内他市図書館から相互貸借により取り寄せ、利用者に提供した。 ・希望資料が県内に所蔵されていない場合は、国立国会図書館や県外図書館に所蔵を確認し、資料提供に努めた。 ・千葉市図書館情報ネットワーク協議会事業を通じて、千葉市内の図書館施設と連携を図った。 ・協議会ホームページに加盟館のイベント情報等を掲載し、加盟館の情報発信に努めた。 ・NPO法人と連携してイベントを実施した。	全館	A	
	46	(6)その他の取組み ア 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を登用します。	公募により委員を2人登用した。(委員計10名)	中央	A	
	進捗状況 順調 主な成果等 (1)図書館業務に関する知識習得を図るため、外部の研修に参加した。(県立中央図書館主催のレファレンス研修会など 研修回数13件、受講者数25名) (3)図書館施設の老朽化への対応として、花見川図書館花見川団地分館・誉田公民館図書室にて、空調工事を行った。 (4)図書資料整備費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。 (5) ・移動図書館のステーションマスター(有償ボランティア)による図書館サービスの提供を実施した。 ・本市図書館が所蔵していない資料は、図書館間の相互貸借等により、市民が必要とする資料を提供できるように努めた。					A→5 B→3 →2
	外部評価者のコメント (1) ・図書館業務に関する外部研修に参加を更に促進するなどし、司書の専門性の向上を図るとともに司書の専門分野を表示するなど、利用者が司書を活用しやすい環境整備を図ってほしい。 ・図書館職員の研修受講を積極的に推進していることは評価できる。AIの図書館への影響など最新の内容についても含めてほしい。 (2) ・図書館職員の研修やデジタルアーキビストの養成は継続して取り組んでいただきたい。 ・正規職員の司書資格保持者が20%程度で推移し続けているので、増加できるよう配慮していただきたい。					

No.	評価指標	達成目標	R6年度実績	R5年度実績	R4年度実績	R3年度実績	R2年度実績	R元年度実績
図書館サービスの基本的な取組事項	新規登録者数 (公民館図書室での登録者を含む)	対前年度比増	19,488人	19,492人	19,810人	18,555人	13,452人	18,977人
	来館者数 (館内での閲覧利用も含め、図書館に来館した利用者の延べ人数)	対前年度比増	208.9万人	207.0万人	197.5万人	197.0万人	162.7万人	250.5万人
	年間貸出利用率 (1年間に、図書館を利用した市民の割合)	対前年度比増	市民の 6.8%	市民の 7.6%	市民の 8.5%	市民の 9.8%	市民の 9.0%	市民の 11.4%
	年間受入図書資料数 (公民館図書室での受入を含む)	現状維持	41,103冊 (うち購入 22,690冊 寄贈 18,275冊 その他 138冊)	44,239冊 (うち購入 25,560冊 寄贈 18,528冊 その他 151冊)	44,926冊 (うち購入 27,948冊 寄贈 16,788冊 その他 190冊)	47,255冊 (うち購入 28,074冊 寄贈 19,024冊 その他 157冊)	49,429冊 (うち購入 32,175冊 寄贈 17,102冊 その他 152冊)	56,431冊 (うち購入 35,379冊 寄贈 20,878冊 その他 174冊)
	図書資料整備費(予算額)	現状維持	94,428千円 (うち電子書籍 10,299千円)	92,144千円 (うち電子書籍 8,282千円)	96,596千円 (うち電子書籍 8,998千円)	89,137千円 (うち電子書籍 3,000千円)	88,621千円	92,214千円
	図書資料整備費(決算額)		78,678千円 (うち電子書籍 9,278千円)	78,396千円 (うち電子書籍 7,501千円)	81,051千円 (うち電子書籍 8,998千円)	74,458千円 (うち電子書籍 3,541千円)	76,336千円	82,012千円
	市民一人当り貸出数及び総貸出数 (公民館図書室での貸出を含む)	対前年度比増	一人当たり 3.8冊 総貸出数 374万冊	一人当たり 3.9冊 総貸出数 387万冊	一人当たり 4.0冊 総貸出数 388万冊	一人当たり 4.1冊 総貸出数 400万冊	一人当たり 3.51冊 総貸出数 345万冊	一人当たり 4.41冊 総貸出数 432万冊
	WEB予約件数	対前年度比増	104.6万件	105.9万件	104.6万件	101.4万件	93.2万件	102.0万件
	図書館ホームページアクセス件数	対前年度比増	9,905,349件 (※1)	3,581,767件	3,892,532件	4,421,009件	3,597,182件	2,410,879件
	電子書籍	ログイン数	対前年度比増	186,942回	63,366回	53,957回	41,157回 (R3.7.30～)	—
提供コンテンツ数		13,620点		12,872点	11,259点	8,866点	—	—
利用冊数 (上段:貸出点数、下段:閲覧回数)		19,207点 278,317回		20,415点 68,755回	16,856点 51,282回	12,518点 —	—	—
予約点数		5,641点		6,505点	8,263点	6,904点	—	—
2	地域行政資料の収集冊数 (公民館図書室での収集冊数を含む)	現状維持	3,300冊	3,702冊	2,953冊	3,454冊	3,795冊	3,509冊
9	レファレンス受付件数	対前年度比増	86,080件	82,169件	77,588件	74,149件	67,292件	90,113件
10	一般向き図書館講座の開催回数及び参加者数	対前年度比増	15回 240人	19回 478人	17回 315人	14回 224人	13回 192人	25回 843人
11	連携事業等実施数 (学校以外の機関(保育所・幼稚園等)との連携により 実施した、市民を対象とした事業の数)	対前年度比増	62件	57件	43件	19件	9件	236件
16	児童(小学生)一人当たりの児童用図書の貸出冊数	対前年度比増	31.94冊	32.32冊	31.74冊	32.21冊	25.58冊	31.58冊
17	おはなし会等の開催回数及び参加者数	対前年度比増	861回 15,830人	798回 13,870人	621回 4,880人	602回 3,826人	241回 1,805人	772回 9,585人
21	学校等関連施設と連携事業を行った回数 (図書館見学、おはなし会、調べ学習、職場体験、学校での 利用案内等の連携事業を行った回数)	対前年度比増	280回	192回	167回	145回	151回	449回
	団体貸出による児童用図書の提供数	対前年度比増	13,250冊	11,205冊	12,891冊	15,707冊	24,183冊	20,909冊
24	地域おはなしボランティア活動実施回数及び派遣人数	対前年度比増	40回 117人	41回 122人	30回 74人	12回 49人	5回 20人	89回 271人
29	図書館利用に障害のある方への情報提供	対前年度比増	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,714点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,117点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 6,339点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,560点	対面音訳件数 0件 貸出冊数 7,154点	対面音訳件数 14件 貸出冊数 7,414点
36	千葉市図書館利用アンケート調査(利用者満足度調査)における満足度	現状維持	満足 56.0% やや満足 38.3% 計94.3%	満足 57.3% やや満足 38.3% 計95.6%	満足 59.3% やや満足 35.2% 計94.5%	満足 58.6% やや満足 36.3% 計94.9%	満足 54.5% やや満足 38.7% 計93.2%	満足 53.8% やや満足 41.1% 計94.9%
37	職員を対象とした図書館業務に関する研修の実施・参加回数及び受講者数	対前年度比増	39回 延べ 259人	44回 延べ 223人	32回 延べ 221人	33回 延べ 261人	26回 延べ 146人	65回 延べ 414人
37	司書資格を有する職員の割合	対前年度比増	54.8% 正規職員 21.8% 会計年度任用 職員(2級) 100%	56.8% 正規職員 22.3% 会計年度任用 職員(2級) 100%	51.1% 正規職員 20% 会計年度任用 職員(2級) 100%	55.9% 正規職員 23.5% 会計年度任用 職員(2級) 100%	54.2% 正規職員 21.6% 会計年度任用 職員(2級) 98.7%	51.9% 正規職員 20.8% 会計年度任用 職員(2級) 94.8%
45	図書館間相互貸借資料数	現状維持 対前年度比増	借受8,884冊 貸出7,327冊	借受8,392冊 貸出8,200冊	借受 8,164冊 貸出 8,145冊	借受 8,533冊 貸出 7,984冊	借受 6,536冊 貸出 6,888冊	借受 7,476冊 貸出 9,378冊

(※1) 急増の要因は、特定のIPアドレスからの高頻度なアクセスと考えられる。

評価総評

内部評価			
【総論】			
<p>・総合的には、一定の業務水準を確保することができたと考える。</p> <p>・来館者数や電子書籍の利用が前年度から大きく増加しており、利用促進の取組の成果が見られる。今後は読書推進活動等を通じて貸出行動のさらなる促進が求められる。</p> <p>・電子書籍サービスは、資料の拡充や学校専用IDの導入により利用が大幅に増加した。今後は利用傾向を踏まえたコンテンツ整備と継続的な周知が必要である。</p> <p>・オンラインデータベースの活用によるレファレンスサービスの即時かつ確かな対応や、デジタルアーカイブ化した資料の学校授業での活用など、ICTを活かした情報提供の強化が期待される。</p> <p>・学校との連携によるイベントや読書支援が活発化しており、子どもの読書習慣形成や世代間交流に一定の影響を与えることができたと考えられる。今後も継続的な協働が望まれる。</p>			
【各論】			
項目	主な成果	今後の課題	
図書館サービスの基本的な取組事項	<p>・前年度から「来館者数」、「電子書籍の利用数(ログイン数、提供コンテンツ数、利用冊数)」が増加した。</p> <p>・電子書籍サービスについて、提供資料数を12,872点から13,620点に拡充した。また、令和5年度末に学校専用IDを市内全小・中・特別支援学校に付与したことにより、令和6年度の電子書籍利用冊数は297,524件となり、令和5年度の89,170件から大幅に増加した。</p>	<p>・来館者数等が増加する一方で、年間貸出利用率が減少していることから、図書館の利用目的が「資料の貸出」以外にも、「調べもの」や「学習スペースの利用」などへと広がっている可能性がある。利用者層ごとのニーズに応じた読書推進活動等を通じて図書との接点を広げ、実際の貸出行動を促進する取り組みを行う。</p> <p>・利用者の傾向(利用されるジャンル等)の把握に努め、それを踏まえた電子書籍サービスのさらなる活性化を図るとともに、図書館の情報提供機能の強化と新たな利用者の獲得を目指して取り組む。</p>	
取組項目	<p>基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現</p> <p>【柱1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進</p>	<p>・千葉市地域情報デジタルアーカイブに、千葉市の町名考及び千葉写真大観や、オーラルヒストリー10件を追加し、コンテンツを充実させた。</p> <p>・歴史的資料である「妙見信仰調査報告書1」「千葉大系図」及び「千葉市郷土かるた」をデジタル化し、千葉市地域情報デジタルアーカイブ(WEBサイト)上で令和7年2月末より公開した。(「千葉市郷土かるた」は同年3月末に公開)</p>	<p>・資格取得支援や人材公募制度を積極的に活用し、専門人材の育成を図る。また、国会図書館などの研修への参加を推進し、開催がない場合は公開されている研修資料を活用した内部研修を検討することで、職員のスキル向上を図る。</p> <p>・読書/リアプリーへの対応として、提供可能な形式や範囲について段階的に検討を進め、より多くの人に情報が届く仕組みづくりを目指していく。</p>
	<p>【柱2】 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築</p>	<p>・各館において、様々な機関と連携しつつ、講座や企画展示等を実施した。また、おはなし会等の開催回数及び参加者数は昨年度から大幅に増加した。</p> <p>・企画展示やイベントについては、館内においてもポスターの掲示及びちらしの配布を実施し、参加者数の増加につなげた。</p>	<p>・オンラインデータベースの利用拡大を図るため、中央図書館のみならず、全館的な活用について、検討していく。</p> <p>・情報発信内容や方法の改善を継続的に行うことで、より充実した図書館サービスの提供を図る。</p> <p>・連携事業を実施し、資料収集や情報提供、事業運営などにおいて相互に協力しながら、引き続き図書館サービスの充実を図る。</p>
	<p>【柱3】 未来を担う子どもたちの読書環境の充実</p>	<p>・高校の協力を得て「高校生が語るおはなし会」を実施し、異年齢層の交流の場を提供した。</p> <p>・図書館で不用になった本を市内の小・中・特別支援学校に提供し、児童生徒の読書環境の充実や学習支援に貢献した。</p>	<p>・児童一人当たりの児童用図書の貸出冊数が前年度比減となっているため、子ども向けのイベント実施による読書支援活動や電子書籍の導入を通じて、児童の読書習慣の促進に努める。</p> <p>・学校に導入された「ギガタブ」を利用した郷土学習コンテンツとしての活用については、学校のネットワーク環境やデジタルアーカイブ化された資料の充実度に応じて、今後検討していく。</p>
	<p>基本目標2 新たな時代に 適応する運営の実現</p> <p>【柱1】 誰もが利用しやすいサービス環境の実現</p>	<p>・日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを的確に把握し、それに応じて外国語資料の収集・提供を進めた結果、昨年度より外国語資料数が135件増加し、多様な言語での情報アクセス環境整備につなげた。</p> <p>・千葉市図書館利用アンケートにおける、サービスの満足度は94.3%と、高水準であった。</p>	<p>・駅前商業施設等への予約本の受取・返却が可能なサービスポイントの設置について、施設の再整備に合わせた導入の可能性を、引き続き検討していく。</p> <p>・電子書籍サービスにおいて、図書館の利用拡大に向け、児童生徒や教職員向けのニーズに応じた魅力的なコンテンツの充実を検討していく。</p>
<p>【柱2】 新たな「知の拠点」 づくりに向けた 運営基盤の再構築</p>	<p>・図書館職員の専門性を高める研修の実施や、県立中央図書館などが主催する外部の研修に積極的に参加した。</p> <p>・施設の老朽化への対応として、花見川図書館花見川団地分館・菅田公民館図書室にて、空調工事を行った。</p> <p>・図書資料整備費については、厳しい財政状況の中、可能な限りの予算確保及び、寄付金受入などの外部資金を確保し、予算獲得のための取組みを行った。</p>	<p>・千葉市職員の人材公募制度や資格取得支援助成制度の活用により、引き続き、司書資格等の取得を促すことに加え、デジタルアーキビストの養成についても積極的に取り組む。</p> <p>・他機関との連携やICTの活用を進め、質の高い図書館サービスの提供を目指す。</p> <p>・施設の老朽化への対応は、引き続き財政部や建築部と協議しながら、適切な対応を行う。</p> <p>・図書資料費の大幅な増額が見込まれない中、利用者のニーズに沿った選書、寄贈本の積極的な受け入れ、電子書籍の一層の活用等により、図書館資料の充実を図る。</p>	
外部評価			
図書館サービスの基本的な取組事項	<p>・前年度と同水準の指標が多い中で、一部の増加傾向は成果と考えられる。登録者数などは人口動態の影響も大きいため、今後は評価基準の柔軟な見直しを検討してもよいのではないかと。</p> <p>・人口減少や情報化社会の進展に対応しつつ、図書館が公共施設として地域の課題解決や情報発信の拠点として機能を強化することが求められている。</p> <p>・ホームページアクセス数や電子書籍閲覧数の増加は成果と評価できる一方、電子書籍の貸出冊数や予約点数は減少傾向にあり、継続的な利用には工夫が必要。今後は社会人向けを含めたコンテンツの充実と利用促進策の検討が求められる。</p> <p>・イベントや展示等の取組により来館者数は増加傾向にあるが、紙書籍の年間貸出利用率や市民一人当たりの貸出数及び総貸出数が減少傾向にあり、コロナ禍以前の水準には戻っていない。紙書籍と電子書籍の役割や比重の見直しを含めた対応が必要である。</p> <p>・司書資格を有する職員割合の増、また、職員を対象とした図書館業務に関する研修への参加を促すなどし、レファレンス業務の充実を図ってほしい。</p>		
取組項目	<p>基本目標1 特長のある「知の拠点」の実現</p> <p>【柱1】 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進</p>	<p>・オープンアクセス可能な史料が増加することは歴史研究や地域研究、生涯学習の振興のためにも望ましい。史料の提供とともに発表の場となるような仕掛けも今後の課題として取り組んでほしい。</p> <p>・オーラルヒストリーのインタビューについて、録音データを視覚障害者向けに提供するなど読書/リアプリーの推進に取り組んでいただきたい。</p>	
	<p>【柱2】 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築</p>	<p>・新たな広報活動としてチラシの配架やショッピングモールへのポスター掲示を行い、SNS登録者や図書館利用者以外への周知を図った点は評価できる。SNSを利用しない児童生徒を含め、市民の目に触れやすい場所でのポスター掲示を継続・強化してほしい。</p> <p>・地域に密着した情報発信や様々なテーマに基づいた展示について、引き続き興味関心を喚起するような情報発信・展示に取り組んでいただきたい。</p>	
	<p>【柱3】 未来を担う子どもたちの読書環境の充実</p>	<p>・「高校生が語るおはなし会」は、高校生にとつての経験の場となり、異年齢交流にもつながった点が評価できる。今後も継続実施に向けて高校との連携を図ってほしい。</p> <p>・子ども時代の読書習慣は将来の学びに寄与するため、読書支援や子ども向けイベントの継続は重要である。子ども自身が企画に関わるような取組も含め、主体的な参加を促す工夫を期待したい。</p> <p>・多様なイベントは、小中学生にとって図書館を魅力的で身近な存在として印象づける効果があると考えている。学校図書館との連携や効果的な周知を通じ、将来的な図書館利用の定着につなげてほしい。</p>	
	<p>基本目標2 新たな時代に 適応する運営の実現</p> <p>【柱1】 誰もが利用しやすいサービス環境の実現</p>	<p>・広報活動や利用促進の取組は評価できるが、距離や身体的制約などにより来館が難しい人々にも配慮し、誰もが利用しやすい環境整備を工夫してほしい。</p> <p>・オンラインデータベースを利用することにより、レファレンスサービスにおいて即時かつ確かな対応が可能となっており、評価できる。</p> <p>・小中学生の電子書籍サービス利用開始は意義深く、今後は利用拡大に向けて、さらなる周知とともに、児童生徒や教職員のニーズに応じた魅力的なコンテンツの充実を図ってほしい。</p>	
<p>【柱2】 新たな「知の拠点」 づくりに向けた 運営基盤の再構築</p>	<p>・図書館職員の研修受講を積極的に推進している点は評価できる。今後はAIの図書館への影響など最新の内容も取り入れつつ、外部研修参加のさらなる促進や、司書の専門性向上と専門分野の表示によって、利用者が司書をより活用しやすい環境整備を図ってほしい。</p> <p>・正規職員の司書資格保持者が20%程度で推移し続けているので、増加できるよう配慮していただきたい。</p> <p>・図書館職員の研修やデジタルアーキビストの養成は継続して取り組んでいただきたい。</p>		